

「ユダ族優先」

アシェル・イントレータ

2014年6月13日



ローマ書には「ユダヤ人をはじめ...に」という表現が3回出てきます。一つは福音(1:16)、一つは患難(2:9)、もう一つは栄光(2:10)についてです。私は、この文節が創世記から継続しているもので、ユダ族が「先に行く」ことを示唆していると感じています。福音書の「ユダヤ人が始めに」ということと、モーセ5書中の「ユダ族が先」ということとの関係は、聖書の約束のすべてにおいて神による序列が、終始一貫したものであることを表しています。メシアに関する契約は、イシュマエルではなく、イサクを通して成就しました。アブラハムがサラとすでに結婚していたからです。彼女が先だったのです。

ヤコブはラケルをより愛していたものの、レアが彼の最初の妻だったので、その(契約成就のための)種は、レアを通して伝えられたのです。契約は長男であるルーベンに受け継がれるはずでしたが、彼は自身の性的倒錯によって失格となってしまいました(創世記 35:22)。次男のシメオンは、殺人によって失格となり(創世記 34:30)、レビはシメオンを幫助したことにより王権への系図から外れてしまいましたが、三男として祭司への系図は保ちました。

そうして契約による権利はユダへと移りました(創世記 43:3)。ベニヤミンを助けるため自己を犠牲にしようとしたことにより、資格があることが証明されたのです(創世記 44:18)。ヤコブがエジプトへ旅立った時に、ユダはリーダーの資格者として序列が確定しました(創世記 46:28)。荒野における宿営場所の序列においても、やはり「初めにユダ族」であり(民数記 10:14)、イスラエル人がカナンを獲得した時も、ユダ族が先に上っていったのです(士師記 1:2)。

序列のため論争が発生

ダビデ王が即位したとき、ユダ族がリーダーの地位に就くことへの優先順位に対し論争が起りました。アブシャロムの反逆の後、北のイスラエル10部族は、ユダ部族が即位の権利を「篡奪した」ことに対し糾弾しています(第2サムエル 19:42-44)。ユダは、ダビデにより「近い親戚」である彼ら自身の優先性で答えましたが、北イスラエルは彼らが「10倍」も大きいことと、ユダ族が彼らを辱めたことを論拠として返答しました。しかし「初め」であるユダ族の主張の方がイスラエルの主張する平等よりも強かったのです。

このユダと北イスラエル間の対立は、イスラエルと教会の対立を予兆しています。国々の教会の

莫大な信者数は重要性があるものの、ユダが始めに来るといふ契約の序列を覆しはしません。この序列は終わりの時 (ザカリヤ 12:7)、再臨 (マタイ 23:39)、そして千年王国の支配 (マタイ 19:28) にまでも続いていきます。

[神の御国は契約によって建てられ、神さまはその契約に対して忠実です。契約には序列があり、その序列は、結婚や(第1 テモテ 2:13)、家族、政府、教会、イスラエルであれ、権威の構造を反映しています。]

霊とまことによる礼拝

ダン・ジャスター



マタイ 6:33 で「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」と命じられています。神の国を求めするための第一歩は、礼拝によってその王と関係を築くことです。神の国への歩みは、礼拝することから始まり、礼拝によって力が与えられるのです。

ヨハネ 4章でイエシュア (イエス様) はサマリアの女に向かってこう言っています。「救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

まことによる礼拝とは、その中身がまことに基づいており、心の奥底からのものであることを意味しています。(その中で) 神さまは、創造者、万能な方、慈悲深く、愛であり、正義なる方として、誉め讃えられます。また人類の歴史において、御自身の良い計画を備え、そのために常に執り成しておられる方として、讃えられます。出エジプト記やその他で神様がなされた歴史的な事件で、詩篇には余すところなく、神さまが誉め讃えられているのです。

ヨハネ 4章でイエシュアは、モーセの序列と新約の序列の違いについて描き出しています。イエシュアは、御国の最も小さい者は洗礼者ヨハネよりも偉大だと言われました。このより良い新しい契約では、礼拝で私たちは主を中心に迎え、主が私たちのためになされたこと (主の十字架、憐れみ、伝道、復活、昇天、天からの統治、再臨、やがて来る主による統治) に集中します。よく知られている御言葉で二重の意味を持つもので、イエシュアは「わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。」(ヨハネ 12:32) と言っています。

このことは、主の十字架によってすべての人が主のもとに引き寄せられることを表しています。そのような力と愛が主の十字架において解放され、またその十字架から復活へと繋がっていったのです。この箇所は、神さまの義と憐れみが結ばれたところに他なりません。ここには神さまの愛、主の人間的な痛みを伴った苦しみが、十二分に表されています。しかし、この聖句は、私たちが礼拝によって主を高く掲げることも意味しています。

霊による礼拝には、聖霊によって霊の情熱が燃え立たせられるという意味を含んでいます。ジョン・エドワードが、そのマスターピース、「*The Religious Affections* = 宗教的愛情」にて十分に議論を巻き起こしたように、父と子と聖霊との私たちの関係は、感情が含まれるべき愛情なのです。

人を育てる



私たちは1人ではほとんど何もできません。このメッセージで、アシェルは神の御国は人々によって建て上げられ、私たちは御国建設のためには、チームで作業していく他には方法がないのです。このメッセージを見るには[こちら](#)をクリック。